

# 「企業を通して経済を考えよう」～働くことと生きること～

## ～労働をめぐる課題をテーマにした授業の展開～

栃木県 公立中学校教諭

### 1 はじめに

社会の急激な変化に伴い、職業に対する個人の価値観も多様化し、「フリーター」「ニート」「モラトリアムの長期化」等の諸問題が表面化してきている。このような時代であればこそ、学習指導要領にも示されているとおり、職業の意義や雇用などについては、それが家計を維持・向上させるだけでなく、個人の個性を生かすとともに、個人と社会を結びつけ、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支えるという意義があることを改めて考えさせる必要に迫られている。文科省をはじめ関係各省がまとめた「若者自立・挑戦プラン」や「進路指導からキャリア教育へ」の流れは当然のことといえよう。生徒に、改めて生涯における「職業的自己実現の意味」や「職業観・勤労観」について問うことは、今後の生徒の人間形成において重要なことであると考えている。

本授業案においては、以下のような流れで、現在の日本の労働環境を把握させ、自分の生き方と関連させて「働くこと」について考えさせる授業を展開したい。

#### 学習① 働きやすい職場をつくるために

- ・労働三権と労働三法、労働組合の役割とその変化、日本の労働時間の短縮等について、教科書の資料を基に考える。

#### 学習② 労働をめぐる課題

- ・終身雇用制・年功序列型賃金制の崩れに伴う先行き不透明感や、失業者の増大、雇用の形態の変化（派遣等）について、教科書の記述を中心に把握させる。

#### 学習③ 働くということ（2時間扱い）

- ・フリーター、ニートと呼ばれる若者について、様々な資料を通して各自がその生き方をどう考えるか、話し合う。話し合いの結果、職業に就く意義と自己実現のあり方をまとめさせる。

### 2 導入 問題意識の喚起

#### ～フリーター・ニートの人の考えを知る

近年、正社員にならずアルバイトで生活する、フリーターとよばれる若者が増えています。



正社員せいしゃいんに就職しゅうくできず、しかたなくフリーターふりーたーになりました。親おやの家からかよっているのでもいまの資金しんきんでよいけれど、自活じかつはできません。

正社員せいしゃいんは自由な時間じゆうな じかんがないと思いフリーターふりーたーになりました。しかし、食べていくために仕事しごとをかけもちし、結局けつぎ自由な時間じゆうな じかんはありません。



▲◎あるフリーターの声

教科書p.66の上記の記事からあるフリーターの声、また、インターネット上のニートのブログなどを紹介し、問題意識を喚起する。生徒には、それらの意見の中で、自分が納得できる考え方には青のラインを、納得できない考え方や疑問だと思える考え方には赤のラインをそれぞれマーカーなどで引かせる。

青ラインの多かった生徒と、赤ラインの多かった生徒をグルーピングし、展開1につないでいく。

### 3 展開1 フリーターやニートとして生きていきますか (ディベート的話し合い)



青ラインが多かった生徒を賛成派・赤ラインが多かった生徒を反対派としてディベート的な話し合いを行う。自分の意思をカードに書くことで明確にさせ、その根拠についても発表させる。

#### 【生徒の反応】 (いくつかの例)

##### 賛成派 <フリーターやニートになってもよい>

- ・とりあえず生きていくためのお金を稼ぐには仕方ないから。
- ・好きな仕事が見つかるまで仕事をしたくないというのは別に悪いことではない。
- ・自分のイメージと職場体験でやったことに違いがあったから、定職に就くまでの間仕方ない。
- ・時間を自分の自由に使うことができるのがよい。

##### 反対派 <フリーターやニートにならない>

- ・労働条件や社会保障など、安定した生活ができないから。
- ・職場体験で働く人々の姿を見て、やりがいを持って働くことのすばらしさを感じたから。
- ・仕事によって自分の人生観や生きがいが生まれてくると思うから。

・将来自分で生きていくためには、早く親元を離れ、経済的自立をすることが必要だから。

(ここまでを1時間抜いとする。)

### 4 展開2 様々なTV番組等から考えを深める

前時の話し合いで出された意見をその理由とともにまとめたプリントを配布し、それぞれの意見について振り返らせる。その後、NHKの番組「クローズアップ現代～働かない若者」(1996年放映)、「同～我が子をニートから救いたい」(2005年放映)や「NHKスペシャル～21世紀の課題フリーター 417万人の衝撃」(2004年放映)等を編集し、生徒に視聴させる。

フリーターやニートの若者たちがどんな悩みや考えを持ち、生活しているのか、また、そういう人たちの増加が社会にもたらす影響等を総合的に理解できるようにする。その後、以下のワークシートに自分の意見を記述することで、現在の労働状況や働くことについての考えを深めさせようとした。

社会科ワークシートII-3-9 3年 組 番氏名 \_\_\_\_\_  
働くことの意味について考えてみよう

0 前の時間の自分の意見を振り返ってみよう。□にチェック!!  
□フリーター・ニートになる(なってもいい) vs □ならない(反対だ)  
【その主たる理由を書こう】

1 TV番組を視聴して、感じたことを書いてみよう。

2 TV番組を試聴した上で、「働くこと」について考えよう  
① 「フリーター」「ニート」に対する意見を書こう。  
② 「働くことの意味」について、自分がマイチャレンジで体験したものと重ね合わせて考えてみよう。

3 働くことと自分の生き方について感じたことを書こう。

## 5 展開3 働くことの意義について考える

ワークシートからは、生徒のいろいろな考えを知ることができた。

### ①フリーター・ニートに対する意見

- ・国全体で考えると、フリーターやニートが増えることは大きなマイナスである。
- ・終身雇用制度のように一つの職場にこだわる必要はない。もっと自分にあった職場選びをするのはよいことだと思う。

### ②働くことの意義について

- ・働くのは自分のため。今の社会にないものは「意欲」だと思う。
- ・仕事に就くこと＝生きがいを見つけることだ。働く喜びは人生の大きな柱だ。
- ・働くことを通して社会に貢献している。

### ③自分の将来の職業選びについて

- ・金銭的な利益より、精神的な利益を求めたい。
- ・早く自立し、親元を離れたい。

### ④働くことと生き方との関連

- ・今は「逃げ」の時代。現実がつかなくて見たくないからといって遊びや趣味にはまりこんでいく人が多い。今一番必要なのは自分で行動し、物事をまっすぐに見て、自分の心を開き、頑張ろうとする強い意志だと思う。最後に、この課題について、具体的な例や幅広い考え方を掲載している池上彰氏の「社会科教室① こんなに身近な経済」を読み、自分の生き方への意識を高めさせようとした。

## 6 おわりに

戦後日本人は「収入のために働く」という側面を第一義として、高度経済成長期を経て豊かな社会を実現した。しかし、その結果も

### 働くことについて考えてみよう

あなたも、やがては社会に出て働くことになるでしょう。人間は、何のために働くのか。そんなことを考えたことはありませんか？〈中略〉

最近、インターネット関係の企業を自分ではじめ、成功して大金もちになった若者たちがおおぜい出ています。こういう人たちの多くは、東京都心の六本木ヒルズやその周辺で働いているので、「ヒルズ族」とよばれます。毎月の家賃が100万円から200万円というマンションに住んでいる人もいます。

でも、この人たちも、「大金かせいだから、もう仕事をするのは、やめた」ということにはなりません。いっしょうけんめい働いています。どうしてでしょう。〈中略〉

この人たちは、働くことが楽しいのです。働くことによって、自分が社会から認められ、自分自身が成長していく。そんな思いができるから、働きつづけているのです。

でも、そんな「ヒルズ族」が働いている同じビルの中のファストフードで働いているアルバイトの店員もいます。こちらは時給（1時間の給料）が850円の世界です。それでも、そのアルバイトをしている人が、働いたお金で生活しながら学校に行き、勉強しているとすれば、まさに目的をもって働いていることになります。すばらしいことだと思います。

でも、なかには正式に就職できないのでしかなしにアルバイトを続けているというフリーターもいます。若いうちは、それでもいいのですが、アルバイトを続けているだけでは、給料が上がりません。技術も身につけません。やがては、生活が苦しくなることが目に見えています。

それでも、働いているだけいい、という場合もあります。まったく働かない「ニート」とよばれる若者が増えていることが、大きな問題になっています。ニートとは、「学校に行っているわけでもなく、働いているわけでもなく、訓練中でもない」という意味の英語の頭文字をつなげた「NEET」のことです。

この人たちは、いまはいいかもかもしれません。とりあえず親に養ってもらってれば、生活はできます。でも、いつまでも親が生きているわけではありません。自分ひとりになったとき、どう生活していくのか。それを考えると、あなたもいまから「なぜ働くのか」「自分は何をしたいのか」「何が生きがいになるのか」を、少しずつ考えるようにしていったら、どうでしょうか。

ほんとうは、働くことはつらいことばかりではないのです。「自己実現」といういい方をしますが、働くことで自分自身を高め、成長していくことができるのです。

「池上彰の社会科教室① こんなに身近な経済」帝国書院  
たらされた過剰な豊かさは、フリーター・ニートの増加という現象を通して、「何のために働くのか」「生きるのは何のためか」という課題を私たちに投げかけている。

本校では、第2学年の総合的な学習の時間で「生きることと働くこと」をテーマに職業観を高め、職業体験を通じて働くことを具体的に意識化させる取り組みを行っている。生徒は、実際に職場に1週間体験に行き、働くことの大変さを感じたり、自分の興味や能力にあった仕事を見出したりと、多くの経験をし、その成果を地域の方にも発信している。それらの学習や学級活動における進路学習との連携を図り、社会科の視点からもなお一層労働・雇用問題への関心を高め、生徒の生き方教育やキャリア教育を進めていきたいと考える。